

なみよせみやけだいせき 7 波寄三宅田遺跡

所在地：福井市波寄町

調査原因：一般国道 416 号道路改良工事

調査期間：令和 3 年 11 月～12 月

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：670 m²

時代：弥生時代・古代・中世



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 遺跡は福井市波寄町集落の北側、九頭竜川左岸の氾濫原^{はんらんげん}に展開します。波寄三宅田遺跡では、平成 22・23 年度にも今回と同様に国道 416 号道路改良工事に伴って発掘調査を行ったことがあり、多くの遺構・遺物を確認しています。今回の発掘調査の位置は、過去に行った調査区の西端部にあたり、国道 416 号を挟んだ南北 2 か所（北側：1 区・南側：2 区）です。調査の結果、過去の調査区と連続して集落が西側にも展開していることが判明しました。

主な遺構 遺構は、掘立柱建物^{ほったてばしら} 2 棟、井戸 4 基、土坑^{どこう} 1 基、柱穴^{ちゅうけつ} や小穴を多数、溝多数を確認しました。掘立柱建物は、1 区では 4 基の柱穴が直線上にならび、建物の一部を構成します。2 区では 1 棟分の建物を確認しました。これら建物の時期は弥生時代後期から古墳時代前期と考えています。井戸は各区で 2 基ずつあります。1 区の井戸は直径約 2 m の円形で、埋め戻された様子がうかがえました。2 区の井戸はいびつな方形でしたが、規模や土層、湧水もあることから井戸と考えました。これら井戸の時期は 1 区の 2 基が弥生時代後期から古墳時代前期、2 区の 2 基は中世の可能性ががあります。土坑は、2 区で 1 基確認したのみで、時期は明確ではありません。多数の柱穴や小穴は異なる時期のものが混在するようです。溝は幅が狭く、深さも浅いもので、時期は特定できませんが耕作に関係がありそうです。

主な遺物 弥生時代から古墳時代の土器、古代の須恵器^{すえき}、中世の素焼きの皿・越前焼などが出土しましたが、出土量は大変少なく、そのほとんどが小片でした。

(野路昌嗣)



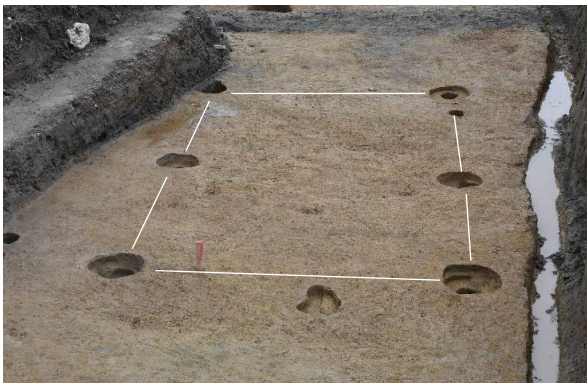
遺跡近景（西から）



1区 掘立柱建物（東から）



1区 掘立柱建物の柱穴断面（北東から）



2区 掘立柱建物（東から）



1区 井戸（北から）